

「緊張」を知り、「緊張」と向き合う

そもそも「緊張する」って
どういうこと?!

緊張は誰でもすると思いますが、そもそもこの緊張とは一体何なのでしょう。身体的に言うと、あることをきっかけとして脈拍が速上がり、血压が上昇。呼吸が速くなり、視野が狭くなる状態を指します。人によっては震えが起つたり、急に汗が出てきたり、口がカラカラに渇いたり、顔が赤面したり、お手洗いに行きたくなったりすることだと思います。また、精神的には、不安が喚起されることで落ち着かなくなることはご存知のことあります。ひどい場合には、パニック状態になり、どうしていいのか分からなくなったりすることもあります。このように緊張すると様々な現象が起きますが、これらの生体反応はあまりメリットを感じられず、「いつたい何に役立つの?」と言いたくなる気もします。言われてみると確かにそうですが、実はこれ、全ての動物に備わっていて、危険を察知した際に逃走や闘争するための自動的な反射機能の一部で、とても重要な役目を果たしているのです。

オリンピック選手でも
緊張するの?

昨年のリオオリンピックはご覧になられましたか?日本人の快進撃はすごかつたですね。いずれも手に汗を握るスリリングな展開ばかりでした。ところで今、「手に汗を握

「あがり症」チェックリスト

〈あがる場面〉

- 人前で意見、発表をする
- 人の目を見ながら話す
- 結婚式、葬式など
人前で字を書く
- 人前で食事をする
- 会社で電話をする
- 人の集まる場所に行く

〈その時の症状〉

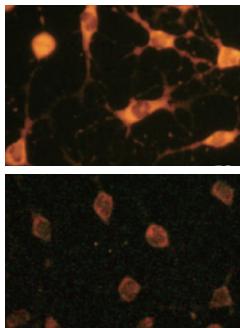
- 過度の緊張におそわれる
- 心臓がドキドキする
- 声が震える、声がつまる
- 赤面する、顔がこわばる
- 手や足がふるえる
- 息や胸がつまる
- 何をしゃべっていいのか
分からなくなる



いぬお病院
犬尾 明文先生

北里大学医学部卒業後、福岡大学病院精神科で研修。いくつかの民間病院における臨床経験を経て、平成28年いぬお病院院長に就任。

TEL.0942-82-7007
住/福岡市東区方町110
URL www.inuo.jp



▲正常な脳神経(上)に比べ、緊張状態の脳神経(下)では活性化が落ち、個々のネットワークが途切れているのが分かる。

※写真提供:apseメンタルクリニック
齋藤利和先生

「あがり症」という言葉は、私たちにとっては馴染み深い言葉です。しかし、生きるか死ぬかというサバイバル的な生活だけを強いる一般的な動物とは違い、我々人間では、この緊張が逆にハンディになります。いわゆる「あがり症」というものです。医学的には「社交不安障害」と呼ばれています。でもこの「あがり症」、今では精神科において治療可能な舞台に何度も立つことで慣れることがあります。しかし、それでも彼もきっと緊張はしているはずです。

この緊張。先ほどお話しした通り、動物である我々にとっては自動的に起こる大切な機能ですから、本来ならこれで困るはずはありません。しかし、生きるか死ぬかというサバイバル的な生活だけを強いる一般的な動物とは違い、我々人間では、この緊張が逆にハンディになります。いわゆる「あがり症」というものです。医学的には「社交不安障害」と呼ばれています。でもこの「あがり症」、今では精神科において治療可能な舞台に何度も立つことで慣れます。しかし、それでも彼もきっと緊張はしているはずです。

緊張で困っている方へ

新規職員募集中です

- ①栄養士、調理師、調理補助
- ②PSW(精神保健福祉士)
- ③精神保健指定医



精神科・心療内科
いぬお病院
☎0942-82-7007

JR鳥栖駅から車で5分。高速鳥栖インターからも5分とアクセス良好です。
佐賀県鳥栖市萱方町110
診察/9:00~12:00(受付11:45まで)、14:00~17:00(受付16:45まで)
休診/日・祝日 初診の方でも予約はいりません

